茨城県立図書館ボランティア会通信紙

かがやき

No.34(2017.4.5 刊行)、広報委員会編集
県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

東大総合図書館出入口附近 1(桜井撮影)

東大総合図書館出入口附近 2(桜井撮影)

特別企画 図書館論

仕事でかかわった図書館の比較

広報委員会
桜井　淳

個々の図書館は、他と明確に棲み分けできるほど、大きな特徴を有している。

たとえば、拙い経験に拠れば、原子力機構中央図書館(旧原研東海研図書館)の蔵書数(約 5 万冊)は、驚くほど少ないものの、国内外の月刊誌・学会論文誌(約 300 部)、レポート数(約 70 万部)、米原子力規制委員会(NRC)許認可資料数(約 37 万部)は、桁外れに多い。原子力分野の文献は、比較的良くそろっているものの、原子力にかかわる人文社会系文献の整備が、あまりにも、貧弱である。在職中、社会科学にかかわる原著論文を 2 編まとめ、文献調査の段階で、そのことを痛感した。

平成 29 年度、茨城県立図書館の職員数(職員 38 名、嘱託 8 名、臨時職員 3 名)、蔵書数(約 93 万冊)と年間貸出数(約 11 万冊)は、意外にも、表面的には、東大総合図書館のそれら(職員 39 名・臨時職員 12 名、蔵書数 123 万冊、年間貸出数約 13 万冊)と大差ない。しかし、東大本郷の場合、実質的には、蔵書とその管理にかかわっている人達は、総合図書館だけではなく、各学部・各大学院の研究室ごとの図書室(兼事務室)と教員研究室、さらに、附属研究所も含まれる。

東大本郷の最近の正確な数字は、把握していないが、概算すれば、図書室(兼事務室、約 3 万冊)は、少なくとも数十、研究室(約 1 万冊)は数百、研究所(兼事務室、約 3 万冊)が数箇所とすれば、かかわっている人数と蔵書数は、少なくとも、それぞれ、計百数十名と計約 700 万冊にも及

東大総合図書館北側に建設中の新図書館
「アカデミックコモンズ」(2012 年工事開始)
(桜井撮影)

び、本郷全体で総合すれば、約 200 名、約 800 万冊となり、茨城県立図書館とは比較にならないほど大きな規模である。東大は、さらに、駒場、柏、全国に散在する研究施設などを総合すれば、さらに、大幅に増加する。

しかし、国立国会図書館の職員数(臨時職員含め約 900 名)と蔵書数(約 2500 万冊)を超えるようなことはないだろう。

東大総合図書館の出入管理は、個人識別 ID カードで改札口のようなゲートを通過するだけで、意識していなかったためか、「ブックチェックシステム」を通過した記憶がない。

新図書館「アカデミックコモンズ」は、2012 年から、総合図書館北側の樹木や噴水の設置されていた敷地に、建設されており(地下に 300 万冊も収納可能な自動書庫設置)、2016 年に完成した。総合図書館の補修は 2018 年に完成した。

国内外図書館の利用経験と感想

元原研職員
山本俊弘

(県立図書館西側、2015.6.17)(桜井撮影)

私は、かつて、アメリカの大学(編集者補足; 米テネシー大学)に滞在していたことがあるが、自身の専門に関する図書や学術雑誌は、学科内の図書室のものを利用していた。

ある時、学科の図書室にはない、日本の学会が発行している学術雑誌を探したところ、大学図書館で所蔵していることが分かった。ところが、手に取って開いてみると、ミシミシという初めて本を開く時の音がする。購入以来、誰も、その本を開いたひとが、いないということである。貸し出された記録もない。このように読むひとがいない図書を、毎号、購入し、所蔵しているとは、意外であった。

米国の大学図書館は、開館時間が非常に長く、夏期は、24 時間。内部は、大変、広く、しかも、静かであり、昼寝をするにも、好適な場所である。私が滞在していた 20 年以上も昔は、入館や閲覧だけなら ID

がなくても利用できたが、現在はどうなのであろうか。

アメリカの図書館の特異な点は、返却が遅れると罰金を支払う必要があることである。図書館の入口付近に、「FINE」と大きく表示された窓口があり、ここで罰金を支払うことになっている。罰金を課さなければ、期限以内に返却するひとは、いないからしい。日本の図書館でも、盗難や切抜きなどが頻発しているようであるが、日本の利用者の方が、モラルが高いのかもしれない。

私の利用した大学図書館では、世界各国の新聞が購読できるようになっていた。日本の新聞では、「読売新聞」が約１週間遅れで、届いていた。インターネットが、一般に普及する以前だったため、この新聞が日本に関する数少ない重要な情報源であった。

インターネットが普及したことにより、図書館の今日的価値も大きく変貌している。学術雑誌や研究報告書類などは、電子化され、図書館のウェブサイトからダウンロードが可能である。部外者にも公開されている文献ならば、世界中どこにいても瞬時に手に入れることができる。

公立の図書館はいざ知らず、大学や研究所の図書館などの来館者数は、IT 化の進展とともに減少しているようだが、ネットを介した利用者も含めると利用者は、逆に増えているのではないか。

図書情報の IT 化は、文献検索を容易にするなど、研究の進め方にも大きな変革をもたらしてきている。公立図書館が所蔵している紙媒体の図書の場合、電子化で公開することは、難しいのかもしれないが、今後、図書館が、どのように変化していくのか、興味を持っている。

特別企画 ボランティア論

39 年間のボランティア体験

水戸キリストの教会
鈴木博之

水戸キリストの教会(水戸市、プロテスタントの伝統的な教会でアメリカの Church of Christ 系。旧茨城県庁の道路を挟み斜め相向かい) (桜井撮影)

水戸キリストの教会について

私は、戦後、すぐに、アメリカの宣教師によって設立された、Church of Christ 系の「水戸キリストの教会」に、39 年間、出席しており、これまでの奉仕の内容も、すべて、教会に関わることである。

そもそも、私が、キリスト教に惹かれたのは、その根本的な土台のひとつである犠牲的精神・利他主義であり、人間の備えた本性でもある自己中心性や自己顕示欲とは、反対の教えや考え方にある。これは、もちろん、クリスチャンではなくても、そのような精神に満ちた方々は、世の中に、非常に、た

くさんいるので、キリスト教の専売特許ではないが、キリスト教の中心をなすものでもある。また、特に、明治時代以降、日本にもキリスト教のミッションスクールが多く設立され、道徳教育的には、ある程度、受け入れられてきていると考える。ただし、言うのは、簡単でも、実践するのは、そう容易ではない。その人の性格にもよるが、信仰も含め、ある程度の信念と覚悟が必要だと思う。

ボランティア活動の内容

私の教会における奉仕(教会では奉仕と言いますが、ボランティアとほぼ同じ意味)活動内容の主なものとしては、毎週の会計事務と毎月および年度末の会計収支報告、次年度の収支予算立案、駐車場賃貸による収益事業税の計算と納税、牧師の社会保険(厚生年金・健康保険)に関する事務および所得税の計算と納税代行、代表役員としての宗教法人の管理業務、教会の礼拝説教録音と HP への UP などの実務的なものと、執事会(役員会)や聖書研究会への参画、そして、礼拝での司会などがある。

上記の実務的な奉仕活動は、会社で例えれば、経理部・勤労課・庶務課を兼ねたような内容で、非常に地味な仕事ではあるが、教会を下支えし、維持するためにどうしても必要なものである。

私は、(編集者補足; 早稲田大学理工学部機械工学科卒業後) 日立製作所および系列会社で約 35 年間勤務した後、技術翻訳業(自営業)を 10 年以上続けているが、仕事の締切り納期が厳しい案件が多くあるため、時には徹夜も必要で、常に、時間的な余裕が少なく、自分としては、教会の奉仕活動に充てる時間の捻出が課題のひとつとなっている。

もし、自分の経済的な面だけを考えれば、奉仕活動の時間は、少ない方が有利にはなるが、仕事と教会の奉仕活動のどちらが大切かと問われれば、迷わず教会の奉仕活動の方が大切だと答えるだろう。

その理由は、自分の中では、はっきりしている。なお、教会内では、これら以外に、多岐にわたる細かな奉仕活動が、各種あり、多くの教会員が、それぞれ真心を持って奉仕に精を出している。

私のボランティア論

奉仕・ボランティア活動は、短期的でなく、長続きさせることが大切だと思う。長続きさせるためには、その内容がある程度、自分に向いていることが必要だろう。なぜならば、苦手な事は、我慢することにつながるため、奉仕の喜びが少なくなってしまうからである。したがって、奉仕・ボランティア活動を行う場合は、何が自分に向いているか(長く続けられそうか)、また、それに喜びや達成感が、ある程度、感じられるかどうか(いわゆる、好きこそ物の上手なれ)を考えることも大事ではないだろうか。

加えて、私の所属している教会全体としての社会的奉仕・ボランティア活動について、少し紹介しようと思う。

私自身は、時間的な制約もあり、実質的には、あまり、協力できていないのだが、代表的なものとしては、まず、東日本大震災直後からの石巻市を中心とした支援活動がある。これは、約 3 年間にわたって定期的かつ集中的に行われ、主な内容は、被災者への親密

で細やかな支援活動や公園の建設・設置などだが、現在も、以前よりは、頻度は減ったものの、時々、行なっている。この原資は、主に米国の多くの教会を含む、全世界から寄せられた義援金でまかなわれている。

次に、カンボジアの学校に行けない貧しい子供たちのための学校建設と教育(英語や全般教育)を含めた支援活動だが、これは、シンガポールの教会との共同プロジェクトで、教会内での募金によって、教員給与などの必要経費をまかなうと共に、1年間に、数回、現地を訪問しながら行っている。さらに、かなり以前から、毎月1回行っているホームレスの方々への支援活動で、これは、教会堂の中で実施しているが、途中からカトリック水戸教会の方々にも大いに協力していただいている。

教会員からの寄付に加えて、比較的最近からは、NPO法人「フードバンク茨城」などから、毎回、相当な量の食料品を寄付して頂けるようになった。これらは、いわゆる慈善活動の範疇に入るものだと考える。

以上のように、様々な奉仕・ボランティア活動が行われているが、教会内、茨城地区、東北地域、カンボジアなど、内容や場所は、異なっても、これらに共通しているのは、自分を捨てて(あるいは自分を意識しない無私の心で)、心から湧き出る奉仕の精神から発しているということだと思うが、その精神こそが、最も大切だと考えている。

編集後記

本号では、通信紙の中心的テーマと位置づけたい「図書館論」と「ボランティア論」の目指すべきモデル的記事を掲載しました。

国内外には、数多くの国公私立図書館が存在しており、参考になることもあります。今後も、調査を継続し、国内外の事例を紹介して行きたい。

今回の「ボランティア論」は、図書館のボランティアではありませんが、分野は異なるものの、ボランティア精神には、共通する事項が多く、参考となる着目点は、継続性と問題意識の源です。

今回の「ボランティア論」の執筆者の鈴木博之さん(71歳)は、茨城県立図書館と目と鼻の先にある教会のボランティアを39年間も続けています。

私は、曹洞宗修行僧として禅寺に通っているだけではなく、「比較宗教学」や「宗教社会学」の研究のために、その教会の日曜礼拝にも通っています。鈴木さんは、ボランティア(正式名は執事)として運営上の重要な役割を担っています。人間的にも素晴らしい資質を備えており、ボランティアのお手本のような存在です。

今後も他分野のボランティアの例を紹介して行きたいと考えています。できるだけ、身近な水戸市にある施設、具体的には、水戸芸術館や茨城県近代美術館などのボランティアの活動例を採り上げたい。

通信紙の表題「かがやき」の採用経緯は、通信紙No.1-2に記されているとおり、公募により、茨城県立図書館ボランティアの女子高生の案によるものです。提案理由は「周りで接する人達がかがやいていたから」と言うものです。ボランティア全体の年齢構成と客観的視点からすれば、幼さが感じられる発想です。通信紙No.25から、編集方針と内容を大幅に改善したため、これを機

会に、表題の改善も図りたいと考えています。

通信紙の改善を図っていますが、No.25-34 まで、内容は改善されているものの、全体的なレイアウトやデザインに改善の余地が残されているため、専門家の助言をいただき、デザインも工夫したい。図・表・写真を挿入し、見やすく、読みやすく、良い雰囲気を醸し出せるデザインにしたい。

私自身、満足できる「かがやき」の編集内容は、まだ、なく(いまのところ 100 点満点で 70 点、たとえば通信紙 No.30)、もう少し、文化記事を多くし、レベルを上げることにより(目標 80-90 点)、日本でも、A クラスのさらに上と位置づけられる A+クラスのような内容にしたいと心がけています。そして、読者率を 60%以上に引き上げたい。

広報委員会は、H26 年度には、7 名中 6 名が辞任してしまい、ひとりしか残りませんでした。残った上條委員に、「なぜ残ったのか」と質問したところ、「これまでの経緯とノウハウの引き継ぎのため」と。引き継ぎ事項は、決して、快いものばかりではありませんでしたが、今後の改善のためには、参考になりました。

過去 2 年間、茨城県立図書館・水戸芸術館・茨城県近代美術館の組織とボランティアについて調査し、「ボランティアの現状と課題」について、「茨城新聞」の担当「社説」にまとめられるようなレベルになりました。1 テーマに 2 年間かけて調査すれば、明確な問題意識が芽生え、オリジナリティの高い社説がまとめられます。近い将来、実現します。

最近の傾向として、国公私立大図書館や公立図書館の予算と人員が、大幅に、削減され、運営の多様化が進行中であり、ひとつの解決策として、「業者委託方式」が採用されています。

水戸市立図書館では、H28 年度から、東部、西部、見和、常澄において、「業者委託方式」になりました。私は、調査を兼ね、時々、東部図書館を利用しています。しかし、際立った改善点は、感じられませんでした。頻繁に利用しているひとにとっては、どうだろうか。引き続き調査してみたい。

自宅の PC から、茨城県立図書館 HP の中の「文献検索システム」を利用すると、茨城県立図書館だけでなく、茨城県内 54 の図書館の蔵書が確認でき、「茨城県内図書館相互借貸制度」に則り、簡単な手続きをすれば、希望する本を入手することができます。これまで、数回、利用しました。それだけではなく、国会図書館・大学・研究機関の図書館の蔵書も OPAC(Online Public Access Catalog)システムを利用することにより、確認できます。

ウェブ社会は、便利であり、半面、セキュリティに起因する問題も生じますが、何事も上手に利用することです。

日本の代表的な大学や研究機関の図書館では、1970 年代初めから、コンピュータシステムに拠る文献検索が利用でき、徐々に拡大し、全国的に採用されるようになりました。それに拠り、文献検索は、飛躍的に効率化されました。

桜井　淳